

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます



教室だより1月号

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

初夢

初夢はいつ見る夢のことでしょうか。

古くは立春を正月としていたため、「立春の朝の夢」を初夢と呼んでいたようです。その後、「大晦日の夢」をさすようになり、大晦日に寝ない(年越しをしてから床につく)習慣ができると「元日の夢」に変わり、さらに1月2日が物事をはじめの日であるという考えから、「2日の夜に見る夢」というのが一般的になっていったようです。

現代では、狭義では「元日、または2日の夜に見る夢」となり、広義では「その年の最初に見た夢」と考えられているようです。

縁起のよい夢とされる「一富士、二鷹、三茄子」ですが、由来は諸説あり、徳川家康が好んだもの、駿河国の高いものを順に挙げたなど、家康がらみの説が有力なようです。ちなみに四以降もあり、「四扇(しせん・しおうぎ・よんせん)、五煙草(ごたばこ)、六座頭(ろくざとう)」といわれています。

また、いい夢を見るためのおまじないもあるようで、七福神を乗せた宝船の絵を枕の下に敷く、「獺(バク)」という字を書いた紙を枕の下に敷いて寝る、「長き世の遠の眠りのみな目覚め 波乗り船の音のよきかな」という回文を紙に書いて枕の下に敷いて寝る、などです。よき初夢を・・・。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる) 先生の言葉より

“教えすぎが、子どもの意欲をうばうこともある”

親切にいいに教えてあげれば、子どもはそれだけ理解が早くなり、よりやさしく進んでいけるのではないかと考える親が多いようですが、どうやら現実には、その反対の場合も多いようです。その一つの例として家庭教師をつけた場合のことを考えてみましょう。子どもに家庭教師をつけて、うまくいったという例は、たしかにあるでしょうが、家庭教師をつけたが、やっぱりうまくいかなかったという例もよく聞くものです。その最大の理由は、教えすぎにあると思われれます。つまり、教えなくてもわかっていることや、教えてもわからないことを、とにかく頭から教えこむことによって、子どもから自分で考え、自分でできたという喜びをうばい、勉強への意欲をうばっている例が多いのです。大人が親切と思ってやっても、それが子どもにはかえってめいわくや負担になっている場合が多いことを、けっして忘れてはいけません。

2018年 1月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1 元日	2	3	4	5	6
7	8 成人の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

1月分の会費引き落としは12月28日(木)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

様

*ゆき子の一言コラム

小3・4英語にLet's Try

来年度から小学3、4年生で英語（外国語活動）の授業がはじまります。外国語活動は現在、小学5と小学6が習っていますが、2020年度から始まる新たな学習指導要領では小学3、小学4に前倒しされ、小学5からは英語（外国語）が教科として数えられます。18～19年度の2年間は移行期間となり、小学3、小学4では年間15コマずつ「外国語活動」の授業が始まりますが、教科ではないため教科書がないのが現状です。

KUMONなら

「聞くのが楽しい!」「英語を言えて嬉しい!」というステップからはじめます
E-Pencilを使って、まずは身近な単語のイラストを見て、発音を聞くところからはじめます。
この教材のE-Pencilの音を聞いてまねすることで
英語特有のリズムが自然と身につきます。
「音楽やリズム」で楽しく学べる教材を使っていますので楽しく学べます。
ネイティブの正しい発音を聞いてまねすることで自然と聞き取る能力が上がります。
イラストを見ながら一緒に発音したり、うたったり・自然と楽しく英語の世界に親しめます。
教材は明るくわかりやすいイラストで、小さなお子さまでも取り組みやすいように設計されています。
日常的な表現を通して、わかる英語を増やしていきます。

ただ、はっきり言わせてもらえば、やはり私たちの言葉「日本語」をおろそかにしてはいけません。
日本語＝国語は ひらがなから始まり、カタカナそして漢字と大変な母国語ですが、最近の低学年は（高学年でもいます
が）漢字の「とめ」、「はね」もろくにできない子が多くいます。昔は習字の時間でよく修正されたものですが・・・。
今の先生が忙しいのか面倒なのか解りませんが、公文書写もやってた私には歯がゆい思いでいっぱいです。

よく国語力と言われ学力低下の議論が活発化していますが、その中でも、読解力が低いと指摘されています。学力低下の議論は、1999年の春頃からスタートしています。当初指摘されたのは「分数のできない大学生」に象徴される理数系の学力低下でした。確かに、正誤がはっきりする理数系の学力低下は明白だったわけですが、教員の多くは、それ以上に国語力の低下の方が深刻だと、痛感し続けていたと思います。なぜなら、かつての学生が参考図書として十分に読みこなしてきたレベルの本を、今の学生は読めなくなっているからです。新書程度の本が読めないどころか、活字が並んだ本を開いただけで、うんざりした顔をする学生すらいます。なぜそうなってしまったのか。今の学生が使用してきた教科書は、フルカラーで挿絵がいっぱい。活字は極力少なめになっています。教科書会社が、世の中の活字離れに迎合しているうちに、どんどん読めない学生が増えてしまいました。参考書も、私たちが中高生の頃は解説型の参考書を使って、自分で下線を引いて読んだものですが、今の参考書は、重要事項ははっきり分かるようにカラフルに書いてあります。活字をきちんと読みこなす勉強に耐えられない学生が増え、必然的に大学の授業で使うレベルの本は全く読みこなせなくなっているのです。一方で、書く力についても、小論文が課される大学の受験生は、相応の力が備わっているかもしれませんが、全体的に見ると大幅に低下しており、しっかりしたレポートを書けない学生が増えていると感じています。
社会全体の活字離れと国語以外でちゃんと教科書を使わないことが要因——読む力、書く力の両方が低下したのは、初等中等教育の「ゆとり教育」が要因なのでしょうか。けれども私は、国語力低下は、それ以外の要因が大きいと考えています。最大の要因は社会全体の活字離れであり、子どもたちも活字に触れる機会が少なくなっていることが一因でしょう。もちろん、学校側にも責任はあります。私は国語の授業内容が変質していると感じています。90年代、小中学校の国語教育は、それまでの「読む・書く」を重視しすぎた教育への反省から、「話す・聞く」教育へと大きく転換しました。しかし、「話す・聞く」を重視するあまり、「読む・書く」がおろそかになってしまった。しかも、「話す・聞く」教育で取り上げられるのは、電話の応対など日常生活の場面がほとんどです。果たして学校教育で扱うべきことなのかと、疑問を感じざるを得ません。本来は、「読む・書く」と「話す・聞く」を並列に扱い、例えば、さまざまな意見を聞いた上でそれを批判的に検討し、賛否両論を踏まえて、自分の意見を書きます。まさに討論型の能力を鍛えられるような授業が可能だったはずですが、残念ながらそうではなかったのです。これからの国語教育は、やはり説明文、論説文を書くトレーニングです。例えば小学校なら、自分の知っているトランプゲームの説明文を書かせて、皆で『ゲーム百科』を作るのもいいかもしれません。ゲームのやり方を人に説明するのは、意外に難しく、いいトレーニングになると思います。重要なのは、そうしたことを子どもたちに任せっぱなしにするのではなく、よい説明、分かりやすい説明とはどのようなものか、原理原則を教えた上で、書かせることです。その点が、これまでの国語教育には欠落していた観があります。